



写真-1 大屋川に架かる樽見橋（平成30年5月撮影）

■ 郡制廃止時に駆け込み的に予算化し架橋

写真-1 は、大正 13（1924）年に養父郡口大屋村樽見（現・養父市大屋町樽見）の大屋川（おおやがわ）に架けられた樽見橋（たるみばし）です。現在の市道おうみ樽見線の一部をなす市道橋で、橋長 40.7m、幅員 2.8m の鉄骨製 I 桁橋です。

『養父郡のあゆみ』によると、郡制廃止※¹ 時に駆け込み的に土木事業が予算化される中、郡制廃止のはなむけ事業のひとつとして架けられたそうです。

※¹ 郡制廃止：明治 23（1890）年 5 月 17 日に公布された「郡制」により郡長・郡役所と郡会が設置され、郡の経費（郡費）はすべて郡下の町村の負担であった。郡は府県と町村の中間の行政機関として一定の役割を担っていたが、郡を経由することで町村事務は停滞・繁雑化し、郡費は町村財政にとって次第に重い負担となっていた。そのため郡制を廃止して町村行政の整理・緊縮を図る要望が町村から出された。明治 37（1904）年の帝国議会で郡制廃止が一議員から提起され、明治 39（1906）年に政府は郡役所存置のままで郡会のみ廃止することを提案したがこのときは実現しなかった。その後、たとえば大正 5（1916）年の尼崎市の市制施行のように新しい市ができると残された町村にとって郡費はますます重い負担となった。

ついに大正 10（1921）年 4 月郡制廃止の法律が公布され、大正 12（1923）年 4 月 1 日をもって郡制が廃止となる。これにより郡会が廃止され、郡道・郡橋など郡有財産は府県または町村に移管されたが、国の地方行政官庁として郡長・郡役所は存続した。翌年 9 月全国町村長会は郡役所廃止を決議し、政府もこれに抗しきれず大正 15（1926）年 7 月 1 日をもって郡長・郡役所も廃止となった。



写真-2 樽見橋左岸側から右岸側を望む

■ 郡制廃止の記念事業として架けられた3つの橋

『養父郡のあゆみ』によると、大正 12 (1923) 年 4 月 1 日に郡制が廃止されるということで、その直前に駆け込み的に対前年度比9倍近い土木費 (9,565 円⇒83,977 円) が予算化されています。この予算の中で養父郡内において 3 つの橋が架けられました。円山川に架けられた大藪橋 (現・千石橋)、大屋川に架けられた久留角橋 (くるつのばし: 現・十二所大橋) と同じく大屋川に架けられた樽見橋です。

① **大藪橋**: 旧養父市場村大藪に通じる円山川に架けられた橋で、架け替え前は仮橋 (木橋) だったことから、洪水の度に落ちていました。大正 13 (1924) ・ 14 (1925) 年度の継続事業として、13 (1924) 年度に道路橋梁費 9,100 円余、これに町村道改築費 5,600 円余を加え、計 14,777 円を計上、着工を決議します。道路橋梁費については県費補助 5,396 円を受けて、大正 14 (1925) 年 8 月に完成しました。

大藪橋はその後架け替えられ、現在の橋は千石橋と呼ばれています。なぜ「千石」なのかは不明です。

② **久留角橋**: 旧広谷村十二所の大屋川に架けられた橋で、総工費 15,248 円の予算をもって大正 13 (1924) 年に着工、県費補助 8,595 円を受けて大正 14 (1925) 年 10 月に完成しています。橋名は、右岸側の小字名「久留角」を冠したようです。久留角橋はその後架け替えられ、現在の橋は十二所大橋と呼ばれています。これは大字名を冠して、橋名板によると昭和 50 (1975) 年に架けられています。

③ **樽見橋**: 大正 13 (1924) 年、旧大屋村樽見の大屋川に架けられた橋で、架け替え前は仮橋 (木橋) だったことから、年に 2、3 回は洪水により落ちていたそうです。大正 12 (1923) 年 3 月付で 11,200 円余の予算を計上して樽見橋の架け替えを出願し、県費補助 6,520 円余の交付を受けて架けられました。

郡制最後の予算となる大正 11 (1922) 年度予算のうち、土木費の大部分を占める道路橋梁費を投入して架けられた上記3橋は、郡制廃止の記念事業的意味合いが濃いようです。

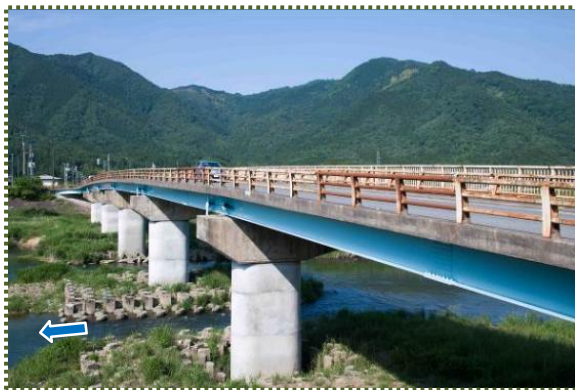


写真-3 主要地方道2号宮津養父線・千石橋



写真-4 大屋川・十二所大橋

■ 昭和天皇のご成婚記念に架設された樽見橋

樽見橋は3本の橋脚があり、基礎はコンクリートで固められています。I型鋼の橋桁が架けられていて、その上にコンクリート床版があります。

左岸側の2本の親柱には、「樽見橋」(下流側)と「大正十三年御成婚記念架之」(上流側)と刻まれています(写真-6・7参照)。

右岸側には親柱がありません。おそらく、県道養父穴栗線改良工事において道路面が上がったことから、樽見橋との取り付け部処理の際に撤去されたものと思われます。写真-5 がその取り付け部ですが、ガードレールのビーム幅との比較から推定して、道路面が 30cm ほど上がっています。

なお、昭和天皇は、大正 13 (1924) 年 1 月 26 日、久邇宮邦彦(くにのみやくによし)王の第 1 女子・良子(ながこ)女王とご結婚されています。



写真-5 県道と樽見橋との取り付け部

それにしても、なぜ郡制廃止のどさくさにこの橋を架け替えたのでしょうか。木橋であるがゆえに洪水のたびに落ちていたにしても、そのような橋は当時たくさんあったはず。大藪橋や久留角橋はそれなりに通行量が多く、地域にとって重要な橋だったのでその後架け替えられています。樽見橋は架け替えられることなく、すでに 100 周年が経過しています（令和 8 年現在）。



写真-6 左岸下流側の親柱



写真-7 左岸上流側の親柱

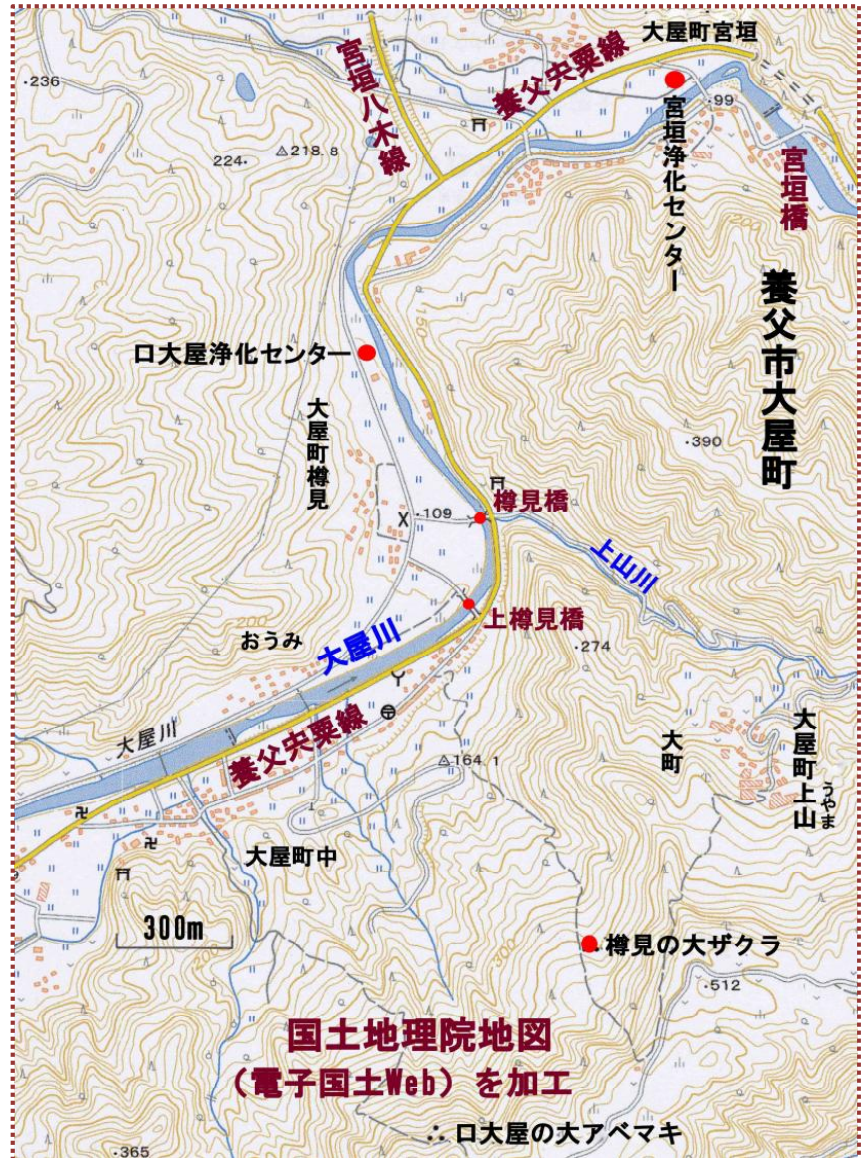


図-1 樽見橋周辺の地図

■ 流木から橋を守る木除杭

樽見橋のすぐ上流に鋼材を組んだ構造物が 1 つ残っています。これは、流木から橋脚を守るための木除杭（きよけい）で、当初は橋脚数と同じ 3 基あったはずですが、今は左岸側の 1 基が残るのみ。中央の木除杭はコンクリート基礎だけが残る、右岸側は基礎ごと吹っ飛んでしまったようです。

樽見橋の架設位置は、大屋川が大きく左にカーブしている箇所なので、流れが右岸側に偏り、しかも流れが速いことから、右岸側の木除杭は流木などがぶつかる頻度も高く、河床洗掘の影響もあったのが原因と思われます。それでも、木除杭のおかげで橋本体は 100 年もの長きにわたりたび重なる洪水にも耐えてきました。



写真-8 流木から橋脚を守るための木除杭



写真-9 宇治川に架かる宇治橋（宇治市）



写真-10 桂川に架かる渡月橋（京都市）

京都嵐山の桂川に架かる渡月橋や宇治川に架かる宇治橋にも、写真-9・10のような木除杭が設けられています。渡月橋の木除杭はコンクリート製で橋脚 1 基置きに設置、宇治橋は鋼製（多分）で全橋脚に設置されています。

■ 清流復活

昔の大屋川は水がとてもきれいだったそうですが、生活排水や農業排水の流入によって次第に汚染が進んでいったことから、旧大屋町では特定環境保全公共下水道事業（特環）を導入し、平成 6（1994）年度に樽見橋の下流左岸側の口大屋浄化センターと約 4.3km 上流の大屋浄化センターを整備しました。以後、大屋川の水質も下の写真のようにすいぶん改善されました。



写真-11 樽見橋から下流を撮影（平成 26 年 4 月撮影）



写真-12 樽見橋から上流を撮影（平成 26 年 4 月撮影）

■ 樽見の大桜

樽見橋のすぐ上流側に、大屋川に流れ込んでいる小さな川があります。樽見の南側の山の道を 2 km ほど登ると上山（うやま）という村があり、ここから流れてくるので上山川。上山川が垂れてくるから垂水となり、音だけが残って樽見となったという説があります。

樽見の山腹に樹齢千年という山桜（エドヒガン^{※2}）の巨木「樽見の大桜」があります。地元の方は「仙桜」と呼び神木として崇めているそうです。この桜はかなり有名で、毎年 4 月上旬の開花時期になると花見客がどっと押し寄せます。一見の価値はありますが、休日は山道が渋滞するそうです。



写真-13 樽見の大桜（平成 26 年 4 月撮影）

■ モノローグ

樽見橋の約 300m 上流に上樽見橋があります。30 年ぐらい前にコンクリート橋に架け替えられて、幅員は 4m、車同士がすれ違える立派な橋です。この橋ができたため、樽見橋は架け替えられることがなかったのかも。

樽見橋を水百景のテーマに選んだきっかけは、『但馬近代化遺産ガイドブック』に紹介されていたからですが、但馬近代化遺産の選定基準が、「但馬地域の明治時代から昭和初期の間に、欧米の技術や価値観を取り入れる中で建設され、産業の発展や交通網の整備に関係した建築物や工作物」とされていて、「交通網の整備」に樽見橋が該当するとのことですが、説明は間違っているし、近代化遺産としての価値がどこにあるのか、単に古い施設だから選んだようにしか思えません。でも、折角何度も足を運んで書き上げたので時間が空いた時にでもお読みください。

※2 エドヒガン（江戸彼岸）

バラ科サクラ属のサクラ。日本に自生する 10 もしくは 11 種あるサクラ属の基本野生種の一つ。和名の由来は、「エド」が東国を意味し、関東地方のヒガンザクラ（彼岸桜）の意味である。落葉広葉樹の高木で、樹高は 12～20m ほど、高いものでは 30m を超えるものもあり、樹形は傘状になる。本種は長寿な分、発芽してから花が咲くまでに時間がかかり、樹高が 10m 程度に育って初めて花をつけ、場合によっては発芽から開花までに数十年かかる場合もある。



写真-14 樽見の大桜

（手前の石碑には「天然記念物 仙桜」と刻まれている）

【参考資料】

- 1 『養父郡のあゆみ～養父郡誌〈行政編〉』 養父郡町村会 平成 8 年 10 月
- 2 『兵庫県小字名集Ⅱ～但馬編』 兵庫県地名研究会編 平成 4 年 12 月
- 3 『橋脚における木除杭及び芥留杭の機能に関する基礎的実験』 土木学会論文集 B1（水工学）Vol.72 No.4 平成 28 年
- 4 『但馬近代化遺産ガイドブック』 但馬県民局 平成 31 年 3 月
- 5 『郡制、口大屋村』 フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』
- 6 『近代化遺産とは』 全国近代化遺産活用連絡協議会 HP
<https://www.zenkin.jp/>

※発刊：令和 5（2023）年 4 月 『ひょうご水百景』 No.170

改訂：令和 8（2026）年 7 月 『ひょうご水百景』 No.170